



競馬場グルメの最高峰、 ロスアラミスカンティーナ



サンタアニタのパドック。
奥にサービスケット像



いつ見ても素晴らしい、 サンタアニタ競馬場の風景

世界旅打ち気分

●第10回・サンタニアタとロスアラミトス

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
#グリーンファーム会報#2018年12月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

忘れるほど良い気分になれる。パドックの中をよく見ると関係者の立ち位置を決める馬番のブレートが地面に置いてある。それを参考にすれば、お目当ての騎手の写真を撮るときなどに便利だ。

最後に忘れないようにしたいのがギフトショップ。パドックから本馬場に馬が向かう通路(これがまた、馬をすぐ前で見られる)の近くにチヤンピオinzというギフト・ショップがある。日本は世界屈指の競馬グッズ大国なのでターフィーショップと比べたらそれほどの規模ではないところ」になってしまふが、世界標準だと十分なバリエーションのグッズが揃っている。Tシャツやパークーなどのアパレル類は特に充実しており、なにしろアメリカなので××や×××といったサイズも普通にある。筆者のような体型の者としてはたいへんありがたいところだ。

続いてロスマーラントス競馬場。こちらはロサンゼルスから南南東に1時間ほどどちらかどこのロングビーチとか、その辺りの近くにある。前述したようにサウスの重要レースも振られるようになったのだが、クオーターホースとトト級サラブ

レッドの開催をナイターでやるパートナーもあり、一部はサンタニアと同日開催になっている。つまり、日によりては昼サンタニア→夕夜口スアマリトスという掛け持ち旅打ちも可能だ。

このロスアマリトスはサンタニア以上にスタンドが古めかしく、決勝審判やアナウンサーのいる上階の出張り部分は、そのうち落ちてへるのではと思うほどだ。スタンド内の客はナイター開催だとビスペラック系が多く、ノリはある意味ひと昔前の日本の公営競技に通じるものがある。馬券寄りのファンがほとんどで、自場のレースよりもサイマル発売されている他場の馬券に夢中という人も少なくない。旅打ちに慣れていない人などちよと怖い客層に見えるかもしれないが、競馬場の場内というのはどうの国でも治安は良いもの。心配は無用だ。

馬券色の強い競馬場だが、馬を見る人にとって良い競馬場もある。この装鞍所は完全な屋内になり、装鞍を終えた馬が「ースに向かう際にはファンのすぐ目の前を通る。屋内装鞍所はアメリカではわりとよくあるが、日本人が行

く機会の多そうな競馬場といふ。となりりりり。

装鞍を終えると馬たちはパドックに向かうことになるが、このパドックがこじんまりとした細長い形で、改装前の福島競馬場パドックをさらに小さく細くした感じ。その一方でからつづつは少ないのだが、いつも間近に馬を見ることができる。

そして、ロスマーミットス競馬場最大のおすすめがメキシ「料理の売店」「ロスマーミットスカンティーナ」だ。どうへ行つてもホットドッグとナチョスというアメリカの競馬場において、自信をもつて薦められる稀有な飲食店である。

ブリトーやタコスなどメニューは6～7種類程度だが、いずれも味のほうは折り紙つき。グリーンチャーネルのアメリカ横断番組でロスマーミットスを撮影したときも「アーチェリーを紹介されたと思った」とおっしゃついた。おそらくは「全米競馬場グルメ選手権」をやつても上位入賞は間違いないとひるだらう。皆さんも現地へ行く機会があったら、ぜひお試しいただきたい。

レッドの開催をナイターでやるパートナーもあり、一部はサンタニアと同日開催になっている。つまり、日によっては屋サ・タアーテー→夜口ニアミースという掛け持ち旅打ちも可能だ。

このロスニアミースはサンタニア以上にスタンドが古めかしく、決勝審判やアナウンサーのいる上階の出張り部分は、そのうち落ちていくのではと思つほどだ。スタンド内の客はナイター開催だとビンゴ券が多く、ノリはある意味ひと昔前の日本の公営競技に通じるものがある。馬券寄りのファンがほとんどで、自場のレースよりもサイマル発売されている他場の馬券に夢中という人も少なくない。旅打ちに慣れていない人だとちょうど怖い客層に見えるかもしれないが、競馬場の場内というのはどうの国でも治安は良いもの。心配は無用だ。

馬券色の強い競馬場だが、馬を見る人にとって良い競馬場でもある。この装鞍所は完全な屋内にあり、装鞍を終えた馬が「ースに向かう際にはファンのすぐ目の前を通る。屋内装鞍所はアメリカで

く機会の多そうな競馬場というところに向かうことになるが、このペドックが「じんまりとした細長い形で、改装前の福島競馬場ペドックをさらに小さく細くした感じ。その一方で、まだつづくファンは少ないので、いつも間近に馬を見る」ことができる。

そして、ロスマーラミットス競馬場最大のおすすめがメキシコ料理の売店、「ロスマーラミットスカノティーナ」だ。行く行つてもホットドッグとナチョスというアメリカの競馬場において、自信をもつて薦められる稀有な飲食店である。

ブリトー やタコスなどメニューは6~7種類程度だが、いずれも味のほうは折り紙つき。グリーンチャネルのアメリカ横断番組でロスマーラミットスを撮影したときも「この店を紹介したが、後に血統評論家の栗山求さんも「あの店は紹介されると思った」とおっしゃっていた。おそらくは「全米競馬場グルメ選手権」をやつても上位入賞は間違いないところだろう。皆さんも現地へ行く機会があつたら、ぜひ

「サンタヘルズは、日本人がよく訪れる観光地のひとつだらう。その口サンゼルス周辺にもいくつかの競馬場があるが、残念ながらその数は少しずつ減つていいづる。現在サンブルーレッドの競馬が行われている競馬場といえば、サンタニア二夕競馬場、そして口スマラミットス競馬場だ。かつてはサンタニア二夕と並んでハリウッドパークが南カリフオルニアの主要場だったが、廃止されてしまった。それに伴い、どちらかというとクローター・ホースメインだったロスアラミットス競馬場が「一式改修を施し、ハリウッドパークで行われていたレースの一部を引き受けている。もう一場、南カリリフォルニアの主要場には「デルマーレ競馬場」があるが、これは都市でいうとサンディエゴに近く、口サンゼルスから車で2~3時間かかる。

今回はその口サンゼルス周辺といつじよで、まずはサンタニア二夕競馬場から紹介しよう。

といつても、サンタニア二夕競馬場の名前を知らないというファンはまずいなのはずだ。これまでに9回ブリーダーズカップを開催し、中でも12~14年には3年連続という開催もあった。

場所は「サンタニエのダントンタウン」から見ると北東、高級住宅地であるパサディナなどに近いアルカディアという土地にある。ダントンタウンから一本で行くバスがあったり、メトロのアルカディア駅から50セントで乗れるシャトルバスが利用できたりするが、多くのファンは自家用車(観光客の場合はレンタカー)やタクシー、uberによつて来場している。ちなみにサンタニアの駐車場は本当に広く、日本の競馬場では最大となる佐賀競馬場と比べても数倍のスケール。混む開催で一番遠いところに停めるハメになつたら入場門まで10分くらい歩くことになる。

た上の階に「エントリー・オフィス」、下の階は「ナース」というレストラントンが入っており、じつへりそこで食事をしながらレースを楽しむのもよい。食事はそこそこのくにかくパドックや外ラチにからりつきたいという人には、カジコアルかつスピーディに食事がとれるカフェエリニアもある。

競馬マニアとして押さえておきたいのが、名馬の銅像。もともとソービスケットやジョーン・ヘンリー（ジャパンカップにも来日）の銅像があつたのだが、最近になってゼニヤツタも加わった。サービスケットはパドックの中に鎮座しているが、ジョン・ヘンリーやゼニヤツタはすぐ前で記念写真を撮る」ともできる。

馬を間近で見るのが好き、といふ人はぜひ装鞍所に行つていただきたい。これはサンタニアに限らずアメリカの装鞍所全般に言えることだが、ファンと馬の距離が近い。また、パドック周回の時間が短いぶん、装鞍所が「馬を見る場所」としての役割を果たしている面もある。

パドックはヨーロッパのような格調で備えていないものの、アメリカ的な明るさがあつて爽快だ。特に天気の良い日には馬券検討を